

コロナ禍の年末年始

新型コロナウイルス感染症の拡大したなかでの年末年始となり、特に例年多くの参拝者のある大中規模神社では正月の人数は大幅に少なくなりました。そんななかで一般の氏神社では例年とそれほど変わらない神社が多かったようで、はからずも地元の氏神社の再認識の機会となったとすれば怪我の功名ともいえるのかもしれない。また、こんなときだからこそ祈りを深めたいという声も少なくなかったように思います。

節分のころまでを初詣の期間として分散参拝をという呼びかけが各地で行われ、近江神宮でも呼びかけていきましたが、もともとある一瞬を境に一気に年が変わるのではなく、年末から少しづつ年を送り迎えるものでした。節分が年越行事であることを再認識した人も多かったのではないのでしょうか



閑散とした本年の元日日中

戦後、昭和三十年ころまでは農山村では旧正月を年越しとして祝う地域は少なくなかったのですが、その後急速に忘れられていきましたが、近年、中国、東南アジアとの交流が深まるにつれて旧正月が春節の名でクローズアップされることが多くなりました。昨年春節の休暇に中国から多くの人が世界各地に旅行し、新型コロナウイルスが世界に拡大する契機になったとされるのは記憶に新しいところです。今年の旧正月は二月十二日でしたが、もともと二月十

一日の建国記念の日も日本書紀に記す神武天皇のご即位の正月元日を今の曆に直すと二月十一日になるとするもので、旧正月を示していません。

建国記念の日の奉納揮毫

昨年に続いて今年も二月十一日の建国記念の日、「和プロジェクトTAISHI」（宮本辰彦氏代表）の主催により、和の精神に基づいて世界平和に貢献するための行事として、伊勢の神宮をはじめ各地の十二の神社で、その地の代表的な書家による揮毫が行われました。近江神宮では紀元節祭の祭典後、外拝殿で滋賀県書道協会理事長の神田浩山氏の奉納揮毫が行われました。

今回の揮毫は、一枚目が、廃人・長谷川權氏の俳句とのことですが「南無金剛 病魔退散 白団扇(うちわ)」 二枚目は和の古字で、繪を左に禾を右に書いた字を大きく、上に奈良時代に活躍した長屋王の漢詩の一部「山川異域、風月同天」と、ほぼ同時代の中国・唐の詩人・政治家、張九齡の詩の一部「相知無遠近 万里尚為隣」と



「南無金剛 病魔退散 白団扇」



揮毫にあわせて龍笛の奉奏

書かれています。前者は「山川域を異にすれども風月は天を同じうす」後者は「相知るに遠近なく 万里尚隣となす」と読みます。

昨年中国で新型コロナウイルス感染症の急拡大が始まってまもないころ、滋賀県と友好協定を結んでいる中国湖南省に県から支援物資を送った際、長屋王のこの詩を書いて送りました。それに対して湖南省から返札の物資が送られ、それにこの張九齡の詩が書かれていました。これを今回、日中の平和と病魔退散を祈る意味をもって採り上げたとのことです。他の神社でも、今回は感染症の収束、克服を祈る言葉が多く採り上げられました。

「和プロジェクトTAISHI」は建国記念の日のほかにも、四月三日の十七条憲法制定の日に各地の寺院での揮毫、二月にはユダヤ教・キリスト教・イスラム教の教会での揮毫など、揮毫、書の奉納によって世界平和を祈る行事を行っています。建国記念の日の揮毫も軌道に乗り、この日の行事の新たな動きとしてメディアにも採り上げられるようになりました。

社務所保存修理工事の経過

御鎮座八十周年記念事業として行われている社務所の「登録有形文化財近江神宮社務所保存修理工事」が始まって半年近くとなりました。全体を少しづつジャッキアップして基礎から離して持ち上げ、コンクリートを流し込んでベタ基礎に改め、その上に礎石を置き直すなど基礎の改修、部材を点検してゆがみを直し、屋根の銅板を葺き替え、第一応接室など増築した部分はよりふさわしい



形に改修するなどの作業が行われています。



工事期間中は参集所を臨時社務所として執務、来客応対も行っていきますが、足元も悪く、用務の皆様にはご不便をおかけしています。また衣裳部は社殿から遠くなり、また狭くて、あるいは結婚式の控室がないなど、ご利用の方にはご不便をおかけしますが、ご理解ご了承くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、現在の工事期間は十一月までの予定ですが、その後残る部分の第二期工事を予定しています。

春から初夏の祭典・行事

三月十七日	午前十一時	祈年祭
四月二十日	午前十時	例祭 勅使参向
四月二十五日	午後二時	近江まつり子供みこし渡御(本年中止)
四月二十九日	午前十一時	昭和祭
五月十七日	午前十一時	崇福寺鎮魂供養祭(崇福寺跡にて)
六月六日	午後〇時三十分	流鏝馬神事
六月九日	午前十時	献茶祭
六月十日	午前十一時	漏刻祭
六月二十七日	午前十一時	献菓献煎茶祭
六月三十日	午前十一時	日供神饌講社大祭 饗宴祭
六月三十日	午後四時	大祓式

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumijingu.org/>「日供神饌講」ページ